

子どもの日本語教育研究会 第3回大会
大会パネル

幼児期のことばの獲得を支援する

子どもの日本語教育研究会の毎年1回の大会では、関連領域の研究と教育現場との橋渡し、有機的往還を形成することを目的として、パネルセッションや講演などの企画プログラムを実施している。

今回は「幼児期のことばの獲得を支援する」をテーマに設定する。子どものことばの発達の基礎は幼児期にある。しかし多様な言語文化背景をもつ子どもたちがことばを獲得し、その後の認知的な発達のしっかりとした基礎を培うためには、幼児期にどのような支援を行えばよいのだろうか。この問いに答えるための模索はまだ始まったばかりである。

今回は、幼児期のことばの獲得の支援のあり方を考えるため、就学前教育と家庭教育の二つの領域から、実際に教育や支援を行っておられる実践者の報告を聞く。また保育・発達心理学の専門家に、理論的な側面からそれぞれの実践を意味付けてもらう。

その後、フロアにも加わってもらい、全体で幼児期のことばの獲得の支援のあり方を議論し、今後の実践への新たな示唆を得たい。

スケジュール

- 15:00～ 趣旨説明 浜田 麻里(司会(研究企画委員長)京都教育大学)
- 15:05～ **保育園・幼稚園において「ことばの獲得」を支援する**
高木 都奈子 氏(愛知学泉短期大学非常勤講師・前知立市教育委員会)
- 15:25～ **家庭で「ことばの獲得」環境をつくる**
マ・ティン・ティン・ウー 氏(ビルマ語医療通訳者)
- 15:55～ **複言語環下にある幼児の「ことばの獲得」とその環境**
内田 千春 氏(東洋大学・発達心理学)
- 16:15～ 質問紙回収
- 16:20～ 全体討論
- 16:50～ まとめ